

「昇格後初のホーム連勝！第1クールを勝利で締める 岐阜1-0熊本【第1節】

ホーム連勝はめでたい事です！日比野克彦教授も旗を振って一緒に応援してくれてましたね。チームはある程度組織的に機能し始めてますが、守備は相変わらず危なっかしくハラハラさせてくれます。何でもないトラップやパスのミスが目立ち、観ている子供達に夢を与える事はできませんね。厳しく書きましたが選手始めみんなが懸命に力を尽くしているのはよく解ります。特に試合中のグリーンズの皆さんの活躍には頭が下がります（本当はゆっくり試合を楽しみたいでしようにありがとうございます）。この努力が観客増へ繋がり、FC岐阜が未永く続き発展するのを切に望みます。（ミスター珍道）

熊本は同期にJ2に上がったライバル。負けられない試合でした。この試合は、熊本ディフェンスの裏を抜くシーンが何回かあって、チャンスはたくさんありました。得点は片桐さんのPKによる得点のみだったのがやや寂しかったですね。でも、この日も恭平が頑張ってくれました。危ないシーンもありましたが、無失点で乗り切ってくれました。無失点での勝利はやっぱり気持ちいいですね。これで対戦が一回りしました。勝ち点が16。二回りは、今、上位にいるチームに対して勝てるようなゲームを期待したいです。これからもハードなスケジュールが続きますが、けがに気をつけて頑張りたいです。これからも長良川競技場へ通います。（たつぽん）

「今日は気分がいいので、一曲歌います。」恭平がそう言い出した時、一瞬ワケがわからなくなり、「とても好きな歌です。知ってる方がいたら、いっしょに歌ってください」と続けられた時には、どうなるんだろう？と心配だったが、そんな不安はたちどころに吹っ飛んでしまった。

「オレたちが～、共にいる、どんな時もオマエと～」
恭平が歌いだしたのはチームチャント「誇り胸に」だったのだ。すぐさま、みんなが恭平に合わせて歌いだす。その時、共に歌った誰もがとんでもなく幸せな顔をしていたに違いない。どんな時も選手とともに、そしてFC岐阜とともに。陳腐な言葉だけれど、歓喜と恍惚感に酔いしれながら、いつまでも歌っていたいと思った、このうえなく幸せなひとときだった。

とはいえ、試合の序盤はヒヤヒヤしどおし。熊本10番の対一や、28番藤田俊哉の、まさに藤田俊哉らしいDFライン裏への抜け出し。恭平の神セーブがなければ、ワンサイドになっていたかもしれない展開。それでも、いつしか流れを呼び込み、何回か訪れたチャンスあとの秋田のガンバリ。それによって得たPKを淳至が決めて、グッと勝利を引き寄せる。できれば、その後のチャンスも決めておきたかったというのはゼイタクかな？とにかく、これで今季長良川での3勝目。昨年はシーズンを通してホームで3勝だったことを思えば隔世の感だ（笑）第2クールも、長良川での勝利をめざし、選手たちと共に盛り上げていきたい！（ぐん、）

この日の熊本戦は第1クールの最終戦。そして、前回の岡山戦からJ昇格後初のホーム連勝をかけた試合となった。

この試合、両チームともに二桁のシュートを放ったが、結局、得点は秋田がペナルティエリア内で倒されて得たPKのみであった。そう考えると、もっとシュートの正確性がほしいなあと感じた試合であった。

また、この日は先の札幌戦で鎖骨骨折で手術した川島選手のために、千羽鶴を作製。無事、川島選手に届けられた。千羽鶴作製のきっかけは熊本戦の前に行われた横浜戦@三ツ沢で関東在住の女性サボさんの呼びかけから。予定では、横浜戦で関東在住の方々にある程度の鶴を作り、熊本戦当日にいらした方に不足分を補う形で千羽の鶴を作製するつもりだったそう。ところが、熊本戦で来場された方の協力が大きく、なんと、熊本戦だけで予想以上の鶴が出来上がったため、千羽鶴を二つ作製することに。試合後にすべての鶴を数えると千羽まで25羽足りない。そこで、残っていたサボたちがその25羽を折っていると、岐阜チャンTアナがカメラを連れて登場。Tアナも鶴を作製し、見事完成となった。参加していただいた方々の想いが届いたようで、川島選手の回復も順調のようで何より。また、岐阜サボのパワーをみた千羽鶴作製であった。私がお礼を言うのもなんですが参加していただいた方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。（緑の小太鼓）

【応援企画】

『J2ゲーフラヶ原の戦い』に参戦する勇者を求む！

現在、Jリーグ公認ファンサイトJ's GOAL上では「J2ゲーフラヶ原の戦い」と題したクラブ東西対抗のゲーフラコンテストを開催中です。

西軍に属するFC岐阜は、7月5日のホーム・カタール富山戦の際に取材を受け、代表になるゲーフラを5本を選出。後日、東軍のヴァンフォーレ甲府とJ's GOALの特設サイト上で五番勝負を行って勝敗を決します。最終的には東西での勝負になります。

そこで私たちG-styleでは、取材日の7月5日に合わせて、より一層のゲーフラをホーム長良川競技場に集結させて取材を盛り上げ、その勢いそのままにたくさんのゲーフラで選手の後押しをして富山戦での勝利を掴み取ろうということで「第3回ゲーフラ祭!!」を企画しました。皆さんのいろいろなアイデアや、チーム・選手への愛情にあふれたゲーフラを持ち込んで当日の会場を盛り上げましょう。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。（TAG）

参考URL

Jリーグ公認ファンサイト「J's Goal」特設ページ『J2ゲーフラヶ原の戦い』
http://www.jsgoal.jp/special/j2gateflag/



絵：ひらっち

today's guest 湘南ベルマーレ

2008 J2 第5位

対戦成績

第0節 08/04/26 湘南4-2岐阜

第2節 08/07/19 岐阜0-0湘南

第4節 08/11/30 湘南3-0岐阜

2009J2

順位表 第2節終了

勝点、得失点差、得点、岐阜戦の戦績
(岐阜から見て)

1	大阪	46p	+22	42	A
2	仙台	44p	+24	36	H A
3	湘南	43p	+22	36	A
4	甲府	41p	+13	28	H
5	徳島	31p	+6	28	A
6	札幌	31p	+4	27	A
7	東京V	29p	+1	23	H
8	水戸	29p	-6	30	A H
9	草津	27p	0	30	H
10	鳥栖	26p	-6	20	H
11	愛媛	24p	-2	21	A
12	富山	24p	-5	16	A
13	福岡	20p	-9	17	H A
14	岐阜	20p	-12	16	---
15	熊本	18p	-9	21	H
16	栃木	17p	-11	16	A
17	岡山	12p	-21	12	H
18	横浜C	11p	-11	16	A

次回 HomeGame

第23節

徳島ヴォルティス戦

6/24(水) 19:00

@岐阜メモリアル
センター長良川競技場

投稿募集!

gdaidohr@hotmail.co.jp

お待ちしております!

FC岐阜大好き通信(岐大通)

6/14号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく & 吉田鑄造

おしらせ

2009年版『岐大通』は、試合数増加のために全ホーム戦での発行を断念し、3~4節ごとに発行の体制で臨んでおります。

次回発行:7/5富山戦

よろしく願い申し上げます。

昨年も今年も勝利、アウェー博多森は相性がいい？ 福岡0-1岐阜【第1節】

試合開始前、ピッチで行われた福岡サポ同士の結婚式。こうした催しを見るのは久しぶりだが、それよりもレベスタのゴール裏に立つと、思い出されるのは昨年の試合。相性のいい九州でのゲーム。幸せ真っ只中の福岡サポさんには申し訳ないが、今日もいっちょやっつてやるっか！第1クールの借りも返そう！そんな気合で臨んだ福岡戦。だが、どうもいまいちノリがよくない。第1クール同様消化不良な場面も多くなる。ただ、それに輪をかけて、福岡がおかしい？そういえば、この試合まで9戦連続勝ちがない。妙なフラグが立っていたが、それはすでにニッパツでの横浜戦で経験済み。後半開始直後に洗一を投入したあたりから、徐々にリズムをつかみ始め、ついに訪れた得点シーン。決めたのは交代出場の洗一！相手GKを交わし、お得意のグラウンダーを無人のゴールに流し込む。しかも、このゴールは正吾のドリブルから和正のスループスを經由した、実に美しいゴールシーン。これだけでも、わざわざ見に来た甲斐があるってもんだ（笑）

この得点をキッカケに、昨年のレベスタでの活躍を彷彿とさせる和正や、今最高にキレている正吾を起点に何度も決定機を作り出すが得点には至らず。結果は逃げ切りの1-0。それでも、ようやく洗一のゴールが勝利に直結！ヒーローインタビューを受けたあと、ゴール裏に来てくれた洗一とともに万歳四唱。何度やってもイイもんだね。オマケに、トラメガ片手に始めた洗一の挨拶の長いこと（爆）。ずっと、何しゃべろうか、考えてたのかな？遠慮せずに、ドンドンこういう場面を作ってほしいね。

それにしても、「（ファン感での公約通りに）得点王、狙っちゃえっ！」という声に「ええ、そのつもりでやっていますんで...」と返す18番。いや、実にイイっ！ホレ直したぜッ！

（ぐん、）

第1クールの最終戦の熊本戦を勝ち、今期初の連勝を目指して乗り込んだレベルファイブスタジアムでの福岡戦。やや肌寒い中でのこの試合。前半いまいちだったエース片桐を後半からスパッと変えて、佐藤を投入。これが、的中して彼が決勝点。これで、今季初の連勝となった。まさに、交代がはまった試合であった。

試合後に現地組でも試合後の話題はこの交代であった。過去にも片桐の交代はあったが、それは後半の中ごろを過ぎてから。それを後半開始からあえて、エース片桐を外してまで勝負に出たこと。実際、この日の片桐の出来は皆、いまいちと言っていた。そして、これで片桐が考えて、一皮むけてほしいと。試合前には福岡サポの結婚式も行われた。実は後から聞いた話なのだが、この時の新郎は昨年の岐阜の試合にも単車でやってきて、長良川でテントを張って一泊した方との事。この時の写真がセレモニーの前にオーロラビジョンでも映されていた。ぜひ、今度は夫婦で長良川にきて、岐阜を堪能して頂きたい。（緑の小太鼓）

県サッカー協会への要望

先日、岐阜県サッカー協会のホームページに「FC岐阜ホームゲームへの4種チーム招待制度」なるものが掲げられた。チームには「子供たちに夢を」というキャッチフレーズがあるのだが、FC岐阜の試合を見てもらいたい子供達当人がホーム試合の日曜日に少年団の練習や試合なので観戦できない状況が敢然とまかり通っていた。これは地域密着活動への第一歩。しかしやる以上はどんどん発展させなければならぬ。課題は非常に多い、それを一つずつクリアしていけるか？フロントや県サッカー協会の姿勢が問われる。（ヘルハース）

「いらっしやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。休：日曜日（今日はお休みです）



どちらのサポも「勝てた試合」と思っているかもしれない 岐阜1-水戸【第1節】

勝利迄あと一步！残念でした。この日のメインスタンドのお客さんはいつもと違ってました。盛り上がる手拍子や白熱シーンで息を飲む一瞬の静寂、歓喜の時の沸き上がる歓声に、勝利を願いサッカーを心から楽しんでいる皆さんの気持ちが心地よく伝わってきました。このような雰囲気はメインスタンドでは経験したことがありません。FC岐阜のサッカーが少しづつですが確実に根付きつつあるのを実感しています。後は観客と収入増を願うのみです。（ミスター珍道）

第1クールの水戸戦。退場者を出し、数的不利の中での同点劇。昨年から続くアウェイ・笠松競技場との相性の良さととは裏腹に、昨年の長良川では消化不良な敗戦を喫している。それを払拭する意味でも、そして何より、クラブ初の3連勝を成し遂げるために、と気合を入れて臨んだ一戦。しかし、水戸の先制攻撃は試合前から始まってしまっ。いきなり「Y・M・C・A」ですか（苦笑）。思わず漂う脱力感というか、ほんわかとした雰囲気。水戸センパイ、さすがです。

試合といえば、キックオフからそれなりのいい流れだったにもかかわらずチャンスは逃し、反対に最初のピンチで腰が定まらずイヤな雰囲気を払拭できないまま、クリアしきれずアッサリ失点。うーん、実にもったいない...。それでも、前半のうちに追いついたのは今季初だし、CKから一発で決めたことは、特筆ものの画期的な出来事だ（爆）いつ以来だろう？と、試合後考えてみたが確か昨年になつたような...。昇格を決めたアノ試合以来か？CKからの攻撃は、どのチームも重要な得点機のハズだが、実に待望久しい一発だった。決めたのが、洗一というのもバラシイ。これで、2試合連続ゴール。今までのゴールは、いずれもやわらかく流し込む、艶のあるグラウンダーのゴールだったが、今日のは豪快に叩きつけた、長身FW面目躍如のヘディング・シュート。

ウチではなかなか見かけなかったゴールだが、それだけに、勝利が欲しかった。とはいえ、後半の惜しいチャンスを決めきれず、恭平の神セーブで勝ち点を拾った試合とも言える。次節、次々節とキャプテン不在、しかも上位との対決をどう凌ぐか。復帰以降も、休養前と変わらぬ献身的で勤勉なプレーを披露し続ける23番・橋本を中心に上位陣に一泡吹かせて欲しい。そんな気持ちを胸に、仙台でもできる限り選手の後押しをしよう！（ぐん、）

ホームで得点を取り負けなかったという収穫があった、とはいえ試合後に気になった事があり問題提起。ヒーローは佐藤だとは思いますが、マイクパフォーマンスしてもらった必要があったか疑問。

それと同時に松永監督への対応が冷たく思えた。別ゾーンから「松永コール」があったのが印象的。選手、監督、フロント、サポーターが一緒になって頑張ろうというスタイルをもう一度考えてほしい。応援を中心に引っ張っている人々の苦勞は分かるが、共闘していくという雰囲気が必要ではないか？（ヘルハース）

立ち上がり早々に失点をしてしまったものの、前半のうちに追いつくことができたのは、好材料といえると思う。洗一のCKからのヘディングシュートは、高い打点のいいシュートだった。セットプレーからの得点なんていつ以来だろうか（笑）。正吾はこの日もキレキレだった。後半の胸でワントラップしてのボレーシュート、確実に決まったと思ったのに...あれは決めてほしかったなあ、っていうかいつ決めてくれるんだ！早いとこズバッと決めてオレらをブッ壊れさせてくれ！（岐阜の誇り）

今シーズン、参加出来る時には「グリーンズ」にてボランティア活動しており、生で応援する事が出来ませんが、でも見なくてもスタンドから聞こえてくる歓声や悲鳴・ため息・かけ声等によってスタジアムの様子をうかがい知る事が出来ます。6月3日の水戸戦もそんな感じの試合でした。

特に後半は歓声とため息が交互に聞こえてきたので、岐阜が攻めてチャンスが続いているんだなと想像していました。そして終盤。バックスタンドの応援に呼応してメインスタンド側でも手拍子が出た時には素直に嬉しかったです。試合結果は残念ながら勝ち越す事は出来ませんでした。この手拍子は必ず選手に届いていた筈です。今日の試合でも選手が大活躍して、大歓声が何度も聞こえる事を期待しています。そしてスタンド全体で手拍子をして、頑張る選手の後押しが出来ると良いですね。（シュナ）

やはりJ2リーグは甘くない 実力差をきっちり示される 仙台2-0岐阜【第20節】

2002年日韓W杯、日本がトルコに負けてベスト8入りを逃した地である宮城スタジアム。この因縁の地での仙台戦。本来なら、仙台市内のユアテックスタジアムで行うべきところだが、芝生の張替えのために代替地として開催された。試合は、日差しは無いものじとと若干蒸し暑い中での試合。いつものように岐阜は走ってプレスをかけるが、やはり、キャプテン菅の穴が大きく、プレスのかかりがよくないし、サイドにボールがうまく出ていかない。そうこうしているうちに足が止まりだした中、秋田の裏にボールを放り込まれて失点。アップアップの状態でも、何とか前半は1失点でと思っていた前半4分に失点。完も試合後に言っていたが、何気にこれが効いたように思う。

後半開始から、片桐、永芳を投入、ボールをまわせるようになったが、ただ、まわせる様になっただけ。仙台もペースを落とすとして無理に得点を取り来なかっただけなので、永芳もパスを出せるが、怖さが無く、片桐も仙台CBの二人がしっかり中をふさいだ為に周りをドリブルするだけ。結局、仙台にうまくあしらわれて試合終了となった。

この試合の前には、最近好調の佐藤の新チャントもお披露目となったが、試合では歌うことも無いままであった。また、終盤に田中秀人がイエローをもらい、累積4枚目で今回の湘南戦はお休み。これも残念な出来事であった。

最後に、来年、岐阜も仙台同様ホーム長良川が使えないが(国体にむけた改修のため)、仙台のように代替りのスタジアムがあるのはうらやましくおもった。ただ、宮城スタジアムは維持費がかかり、赤字だそうだが...

(緑の小太鼓)

何気ない一本のパス。それは決して、息を飲むような鮮やかなパスでもなければ、スタジアムの時間を止めてしまうようなキラーパスでもなかった。柔らかく、緩やかに飛んできたボールは、仙台10番・梁勇基の抜け出しを待ちかねていたかのようにピッチに降り立ち、そのまま梁を經由してゴール中央で待ち構える敵FW18番の元へ。恭平でなくとも、GKにはノーチャンスなシュートが一瞬にして決まってしまう。それは、まさに前線へのフィード。出された瞬間には「オフサイドだろ?」と思わせるような、縦へのロングパス。出したのは、仙台のボランチ31番・斎藤だったか。両者の呼吸がピッタリとはまった、「参りました」と言わざるを得ないタイミング。失点後もよく耐えたDF陣だが、前半終了直前に再び失点。結局、この一点で趨勢は決した形となった。

後半は淳至を中心にゴールを目指したが、試合前、旧知の仙台サポに聞いていたとおり、仙台の両CBの壁は厚く、シュートも枠を捉えることができず、相手GKを慌てさせる場面もないままタイムアップ。まるで、ボールとスペースを与えられる代わりに時間を奪われる、そんな試合にされてしまった。なおかつ、体力温存しつつ時間を進めた仙台が、時折仕掛けるカウンターにたまたま秀人がファウルを犯す。ついに累積警告4枚目。次節・湘南戦の欠場を余儀なくされる。開幕以来、アウェイ水戸戦以外のスタメン、フル出場を続けていた守備の要と、今節に続いてキャプテンがいない布陣で、上位の湘南と戦わなければならない。厳しい状況だが、ぜひともこの逆境を乗り切ってほしい。

それにしても、一万人超えの入場者数もうらやましいが、にもかかわらずのスカスカ感あふれる、このハコのデカさは何だ(苦笑)。約一万人v約50人の戦いにも、少しワクワクしたことを付記しておく。

さて、この仙台戦。3試合の連続ゴールを期待して、洗一のチャントが満を持して披露された。喜びに包まれて歌うことは叶わなかったが、湘南戦こそ万歳四唱とともにみんなで洗一のチャントを歌いたいね!

(ぐん、)

ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

昨夜の雨で蒸し暑い曇り空の下、かつてW杯が開催された宮城スタジアムで行われた仙台戦。遠方でのアウェイしかも日曜日ということもあり、岐阜サポの数多くはない...いや、逆に「よくこれだけの人数が集まったなあ」と言うべきか(苦笑)。試合は序盤から我慢の展開。菅を出場停止で欠きベストとは言えない布陣で、現在リーグ3位の仙台の攻撃を凌いでゆく。攻撃に転じて前線でボールがうまく収まらず、逆にカウンターをくらう。何度か危険な場面があるものの集中してゴールを守るDF陣。これは膠着状態になるかな...と思った34分、斉藤のロングパスを梁にワンタッチでソアレスに繋がれて先制を許す。その後、ロスタイムには平瀬に決められ、2失点で前半終了。チームは後半開始から片桐と永芳を投入して巻き返しを図るが、引いて2点のリードを守る仙台にいなされ、そのまま試合終了。力の差を感じさせられた内容だった。仙台の、堅実な守備からの素早いカウンター、サイド攻撃を中心としたボール運び。それは、FC岐阜がやろうとしている事と似ているかなと感じた。ならば若いウチの選手達には、悔しいけれどいい経験になったことだろう。(インタビュー等からすると)選手達自身が分かっているように、今のチームは良い形で攻撃が繋がるようになったものの、なかなかフィニッシュ(シュート)に持っていけない状態。それでも、開幕時と比べると格段にチームは成長している。次節には、また少し成長していることを期待したい。

(ささたく)

学生時代を仙台で過ごしたので、この日の対戦相手・ベガルタ仙台は「ブランメル仙台」時代から意識して視ていたクラブだ(以前はこの名前だったのですよ)。地域決勝の予選を観に北九州本城まで行ったくらいに。このサポペーパー『岐大観』だって、仙台サポがブランメル時代から発行し、一時は「30分で300部が捌けた」と言われるサポペーパー『ベ・マニア』に影響を受けて始めたものだ(現在は発行していないらしい)。昨年は仙台のホーム戦に行けなかったのが、今回はどうしても行っておきたかった。

利府駅から路線バスに乗って、宮城スタジアムへ。ユアスタと同じくメインスタンド下に彼らはたむろしていた。ようやく、公式戦の対戦相手として挨拶が出来たことが、ぼくはとても嬉しかった。彼らは笑いながら「勝ち点3は取れる時に取っておかない」と誠に失礼極まりないことを言う(笑)。そうかいそうかい、その社交的ケンカは買わせていただく。笑顔で握手をして別れる。

しかし、試合は残念ながら見事なまでに『ベガルタの試合』にさせられてしまった。両サイドが自信を持って高く位置取り、ボールをワイドに動かして岐阜のDFを消耗させる。その際、パスケでいうところの『ポイントガード』のようにパスまわしの中心で捌いていた梁勇基が最終ラインからの縦パス1本で抜け出してゴール正面に走り込むソアレスに「こんなもんで、どう?」とばかりのラブリーなパスをダイレクトで入れられたら、どうしようもない。一方、岐阜の攻撃には自陣ゴール前でエリゼウがしっかりと立ちばかり、これでは洗一や優大の高さも活かせない。残念ながら『器の差』をまざまざと見せつけられた90分だった。

しかし、これは仕方がない。『器』は違ったのだから。ならば、次はどうするかを考えよう。つい最近発売になったサッカー雑誌で、某J2クラブの関係者がインタビューで「ウチは「伸びしろ日本一」が合い言葉」と応えていた。異議あり。「伸びしろ日本一」は、FC岐阜だ。(吉田鑄造)

【セカンド】全国大会への最終関門・ 全国社会人大会東海予選

7月4日(12:00)、5日(11:00)の両日に長良川球技メドウで全国社会人サッカー選手権東海地域大会が行われます。トーナメントなのでFC岐阜2ndが2連勝すれば、東海地域代表として10月17~21日の本大会(千葉県開催)の出場権を得ます。岐阜県代表のもう1チームはFC川崎。こちらは4日(14:30)に名古屋市の港サッカー場で行われます。5日はFC岐阜はナイターで富山戦。ちょっと時間は空きますが、「FC岐阜に染まる一日」なんてのもいいのではないのでしょうか?(ち～な)



本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>

【緊急企画】 ヴァンフォーレ甲府への移籍が決まった 片桐淳至選手へのメッセージ。

いつかまた故郷で！待ってるからな！今までたくさんのワクワクをくれてありがとう！（流石）

あなたの活躍を観て笠高へ進み、あなたがJリーグに導いたFC岐阜のファンになりました。大事なきっかけをくれてありがとう。これからも応援します。日本のサッカーを変えるのはあなたしかいません。（神楽ちゃん）

「シーズン途中の突然の別れ」といってまずはじめに思い出すのはJFL時代の戸塚哲也前監督です。そして直後のホーム鳥取戦で錢とも思えるハットトリックを達成し、顔をクシャクシャにして万感の想いで拳を夜空に突き上げていたのが「岐阜の10番」片桐淳至です。シビレました。彼は岐阜の宝なのだ、とも思いました。そんな彼が岐阜を離れます。クラブの経営問題、彼自身のキャリアアップ、彼に惚れこんだ移籍先のクラブ、もういろんな思いがグチャグチャです。そのどれもが真実で、ものかもの申そうにも公式発表から2時間足らずで整理できるものじゃない。僕が出来るのはなんとしても今日の試合を勝利で飾ってあのときの彼のように最高の泣き笑い顔で顔をクシャクシャにして「岐阜の10番」を送り出すことです。片桐淳至、サヨナラは言わない、いつかまたともに闘おう。（ST57）

新天地へ行っても怪我せず長く現役でいて下さい。今までありがとうございました。（クマゴン）

今回の移籍がどういった経緯で決まったかは判りません。貴方の心境も判りません。ただ、望まれて甲府に行くのなら、俺は笑顔で見送ります。それが例え目から涙を流しながらでも。片桐選手。きっと甲府をJ1に上げて下さい。そしてJ1の舞台で岐阜が一足遅れて来るのを待って下さい。俺達はきっと貴方に追い付きます！絶対に！！（シュナ）

今までありがとう！甲府で活躍して、J1に昇格して、来年はJ1のピッチに立つ片桐選手が見れることを楽しみにしています。頑張れ！（ヒデ）

片桐淳至のドリブル劇場はまだまだ続くよ。淳至、これからは自分の思うがままに大きな舞台でドリブル劇場がまして大きく輝いてくれよ！甲府の昇格なんてケチな事言わずに日の丸背負ってくれよ！残されたサッカープレイヤーの人生は長くない。これからは自分の本当の夢に向かって頑張る。代表ユニフォームを着て世界相手のドリブル劇場期待してるよ。不器用でいつも悪く言われても弁解や言い訳を言わずサッカーだけで答えを出そうとした貴方を私は大好きでした。（夢の案内人）

去年のホーム最終戦での片桐選手のヘディングシュート。あのゴールでの勝利が、前日のサボカンで悲壮感いっぱいだった私に、FC岐阜を応援し続ける勇気と希望と決意をくれました。本当に感謝しています。今までありがとうございました。甲府での活躍を期待しています！（ina）

今回の突然の移籍には、大変おどろき、ショックが大きいです。岐阜の選手の中では、アツシは別格であり、地元ということもあり一生岐阜にいてくれるものだと勝手に思っていました。今年初め、半年契約だとかいろいろ噂を聞きましたが、絶対に岐阜の10番はアツシしかいない、チームの事情で昨年末に去っていった仲間の意志を継いでいくのはアツシだと思って、ずっと応援してきました。レブユニも番号は10番を買いました。昨日の深夜にこのニュースを知ってから、ショックで眠れませんでした。でも、落ち着いて考えると、アツシにとっては、とても大きなチャンスなんですね。甲府で活躍してJ1へ行き、もっともっと大きな選手になってほしいです。ずーと応援したいと思います。そして、本人もコメントしているように、いつかまた、岐阜へ帰ってきてほしいですね。今よりもレベルアップしたアツシが、いつの日か長良川で10番をつけて活躍してくれることを夢見ています。片桐淳至、どこへ行ってもがんばれ！岐阜から応援するぞ！（zek）

去年最終節・鳥栖戦のヘディングシュート、何度見ても涙がでます。色んな想いが伝わって・・・またいつか岐阜へ戻って来て下さい！本当にありがとう。（K A E L A）

「岐阜のエース」として自覚しているだけに今回の決断にはいろいろあったろう。子供が生まれ家庭を守る父親としての責務を持った「男」の選択。ピッチ上で岐阜をJ1昇格に導いた最大の功労者を喜んで送り出してやる、それが彼に対する最大の感謝。（ヘルハース）

ニュースで知った時はかなりショックでした。色々思う事はありますが、新天地でも頑張りたいと思っています。岐阜戦以外ですが、（ブラウ）

寂しいです。三年半ありがとうございました。片桐選手は岐阜の誇りです。怪我には気をつけて下さい。更なるご活躍を心から願っています。（ちゃんこ）

東海リーグからここまで一緒に戦ってきた仲間がいなくなるのは寂しいです。けど、この移籍が彼のステップアップのためなのであれば早く見送ってあげたいと思います。ありがとう、片桐。最後のコメントを信じて待っています。大きくなっていつか最後は岐阜と一緒に頑張ろう。（ジュニア）

移籍の報を知り、今朝はいつべんに眠気が覚めました。寂しさと同時に、FC岐阜の置かれている現状を改めて痛感させられました。やっと昨年末の傷が少しずつ癒えてきたところなのに...。東海リーグ時代、ここで負けたら終わりという地域決勝岡山戦@大分で見せたヘディングシュート。JFL時代、鳥取戦での解任されたばかりの戸塚さんに捧げる魂のハットトリック。そして、昨年最終戦去り行く仲間達への惜別のゴール節目印象に残るゴールを見せてくれました。シーズン半ばでのこの移籍発表は非常に堪えたいですが、彼自身のキャリアアップになればと考え、気持ち良く送り出してあげられればと思います。片桐、今まで本当に岐阜のためにありがとう。そしてこれからまだまだ続く貴方のサッカー人生に幸大からんことを...。そして叶うことならば、キャリアの最後は再び岐阜でということになれば幸いです。（岐阜の誇り）

2年前の6/23 ガイナーレ鳥取戦。Jを目指してJFLを戦っていたがチーム状況が悪化したため、戸塚監督（当時）の解任が決定した直後の蒸し暑い夜の試合だった。チームもサポーターも重い気分の中、その雰囲気振り払ったのは片桐だった。ハットトリックを決め、僕らサポーターの前に駆けてきた彼は、自分の背中を両手の親指で力強く指さした。『この俺が、FC岐阜の10番だ』と。そして、両手の人差し指を立て、唇に当てて天にかざす。その頃からはじめた、彼のゴールパフォーマンス『I LOVE 岐阜』。その姿は、今でも僕の目に焼き付いている。あれから2年。当時いたほとんどの選手はチームを去ってしまったけれど、片桐は10番を守り続けてくれた。そして今、片桐がチームを去る。寂しい気持ちと、ステップアップしようとする彼を気持ち良く送り出してあげたい気持ちとが僕の中で交錯している。ありがとう片桐。甲府でも活躍してくれ。そして甲府の昇格に貢献してくれ。だけど...対戦した時には、絶対負けないからな。（ささた）

1日の金曜日、代休になったので、練習場となる各務原の浄化センターに行った。私は東海リーグの時代からチームの練習をよく見ているのだが、当日は普段と変わらず。QM時にはいつも通りゴールに向かっていく姿があり、OFF時には遊び心のある片桐のもの。徐々に練習を見に行っていたのだが、「いい面構え（プロの顔）に戻ってきた」と満足させてもらえた。彼は口構えが少なくプレーで語るタイプ。サッカーに真正面から向き合ってきた人間である。一度上を経験し挫折し這い上がってきた、それゆれ自分のプレーに満足することなく味方のプレーに叱咤をする。そういう意味でも「岐阜の生え抜きエース」であり、どこへ出しても恥ずかしくない「岐阜の選手」。行くからには新天地で結果を出し、我々FC岐阜のサポーターを喜ばせてください。ありがとう！岐阜の10番 片桐淳至。（ち～な）

「ありがとう」は言わない。それを言うのはアツシが岐阜をJ1へ、アジアへ導いた時。きっと帰ってきてくれる事を信じて。でも、今は新天地での彼の活躍を祈るだけ。片桐淳至のこれからの幸あらんことを。「またな！」（ごっちゃん）

地域決勝の魂のゴール。夕焼けに向かって飛び込むかの様なシーン。あのゴールから一気にJへの昇格へ向けて歯車が回りだした。象徴的なゴールシーン。目の前で見える事ができて良かった。甲府へ行くアツシ。なんとしてもレギュラーをはって、岐阜DF陣と勝負して欲しい。今はアツシの甲府での大暴れを祈るのみです。（T E D D Y）

“FC岐阜の顔”片桐選手が移籍することを知り、驚きとともに、淋しい気持ちで一杯です。地域リーグ時代からチームを見守ってきた者として、片桐選手はFC岐阜飛躍の最大の功労者だと思います。また、いつの日かJ1へ昇格したFC岐阜へ戻り、長良川競技場のピッチで雄姿を見せてくれることを期待しています。慣れない土地へ向かわれますが、体調管理には十分注意してがんばってください。（H A R R I E R）

今回の移籍、片桐にとっては家族を養うという親としての収入アップのための選択。甲府にとつては、J1昇格のため戦力のアップみとしての選択。そして、岐阜にとつては移籍金が入る（はず）で、なおかつ片桐への給料分が浮くことに。3者が納得した（経緯はともかく）移籍。シーズン終了後、それぞれがよかったといえる結果になることを。ただ、この時期にチームの中心選手を手放さなければならぬ岐阜。片桐が東海一部時代からJの複数のチームに呼ばれるまでに成長したが、FC岐阜というチームや組織はその成長に追い付くことが出来なかったということが。残された我々岐阜のサポは、片桐がいずれ岐阜に戻ってきたいような事を言っていたので、彼が喜んで戻ってこれるようなチーム、組織にすべくいろいろと動いていかねばならない。（緑の小太鼓）